

令和4年9月15日

京都府中丹東農業改良普及センター

京都府中丹西農業改良普及センター

台風14号に備える技術対策

台風14号は9月15日(木)には日本の南の海上を西へ進んでいます。今後は発達しながら西寄りに進み、18日(日)には北寄りに進路を変え、19日(月)には西日本に接近、上陸するおそれがあります。

今後の気象情報に注意し、強風や大雨に対する農作物の事前対策を行いましょう。また、被害が出た場合は速やかに対処しましょう。

1 水稲

(1) 通過前

① 既に刈取適期になっているものは、速やかに刈り取る。

(2) 通過後

① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

② 成熟期に達し、倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、品質低下の防止に努める。特に、キヌヒカリ、京の輝き、祝などの穂発芽しやすい品種を優先して刈り取る。

③ 収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際をみて、折損していないようであれば、5～6株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。

2 豆類

(1) 通過前

① 豆類は湿害に弱いため、必ず排水路や排水口等の点検を行い滞水させないようにする。

② 大豆については、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2) 通過後

① 大豆・小豆では、莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤を散布する。

② 浸水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病虫害防除を行う。特に、小豆については茎疫病等の防除のため殺菌剤を散布する。

3 野菜・花き

(1) 通過前

① 明きょや排水路の点検・整備など、排水対策をしっかりと行っておく。

② パイプハウスは概ね30m/s以上の風速で大きな被害が発生する。ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材の破損部を補強し、しっ

かりと閉め切る。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

(参考) 園芸ハウス台風対策マニュアル

<http://www.pref.kyoto.jp/nosan/news/documents/detailverall.pdf>

また、風に飛ばされたものがハウスに当たって破損するケースが多いので、周囲をよく整理し、風に飛ばされやすいものは片付けておく。

- ③ 露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。
- ④ 果菜類では、根傷みによる草勢低下を防ぐため、摘果や若どりにより着果負担を軽減する。収穫後の側枝のうち、不要な枝やつるを摘除し、風圧を少なくする。

(2) 通過後

- ① 滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。
- ② 作物への泥のはね上がりが多い場合は、動力噴霧器等を使って洗い流す。
- ③ 液肥（500～1,000倍）の施用や葉面散布を行い、草勢の早期回復を図る。
- ④ 雨風による傷から病原菌が侵入しやすいので、こまめに観察し必要に応じて発生初期に防除する。
- ⑤ 収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種直後で発芽不良の場合は、直ちに播き直す。
- ⑥ ハウス栽培の場合、湿度が高まり病気が発生しやすくなるので、積極的に換気を行う。通路が湿潤で作業性が悪い場合は、もみ殻等を畝溝に敷き詰めて過剰な水分を吸収させる。
- ⑦ 露地栽培の風よけのべたがけ資材等はできるだけ早く除去する。条間や畝全体を軽く中耕し、通気を良くする。

4 茶

(1) 通過前

- ① 新植、幼木茶園は、風害を受けやすいので、株元に土寄せを行う。特に、風当たりの強い箇所では、杭等に茶樹を結束する。
- ② 傾斜地茶園では、浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。また、新しく造成した茶園では、降雨量が多いと土壌浸食の恐れがあるため、排水路を整備する。
- ③ 被覆茶園は、被覆資材を吊り線等へ結束する。由良川沿いで氾濫の可能性がある茶園の被覆資材は、泥水による汚損を防止するため撤収する。
被覆棚を補強するアンカー等に緩みがないか確認する。
- ④ 輪斑病及び新梢枯死症の発生茶園では、強風により生じた傷から病害が広がるおそれがあるため、予防防除を行う。
- ⑤ 挿し木床では、トンネルのビニールが強風で飛ばされないよう、杭や紐などで固定するとともに、日よけの被覆資材を開けて、支柱等に結束する。
- ⑥ 製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。浸水が予想される場合は、ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーをあらかじめ落としておく。

(2) 通過後

- ① 茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
- ② 強風で株元が緩んだ幼木園では土寄せを行い、地際部や根を保護するために敷草等を行う。
- ③ 土砂が流入した場合は速やかに取り除く。泥が付着した茶園では、葉層内部の古葉に付着した泥は、軍手等の手袋をし、両腕を株の中に突っ込んで株をゆすり、株内に落とす。葉層の上に載った泥は、竹等の棒状のものでつつき落とす。作業時は土ぼこり防止のため、マスク、メガネ（ゴーグル）は必ず着用する。
- ④ 表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
- ⑤ 炭そ病、新鞘枯死症予防のため、適用薬剤を散布する。
- ⑥ 性フェロモン剤(交信攪乱剤)を設置した茶園では、剤が地面に落ちたり、切れたりした場合には、拾って再設置する。
- ⑦ 被覆棚や防霜ファン（配線・センサー等）に不具合や破損がないか確認する。
- ⑧ 製茶工場が浸水した場合は、速やかに排水し、工場内を十分に乾燥させる。ショートによる火災を防ぐために、ブレーカーを落として、ピットの排水に努めるとともに、モーター類電機設備の点検を行い、安全を確かめてから通電すること。電機設備の整備点検は専門業者に依頼すること。生葉コンテナ等水洗い出来るものは十分に水洗いし、乾かしてから通電すること。
- ⑨ 作業時にはヘルメットやゴム手袋を着用し、複数で作業するなど安全に留意する。

5 果樹

(1) 通過前

- ① 防風ネットは、柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。
- ② 果樹棚は、周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないよう補強しておく。また、棚の揺れ止め補強をしておく。
- ③ ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。
- ④ 棚利用の果樹では、棚線に枝をしっかりと誘引して、枝折れや果実の落下を防ぐ（傷果防止）。
- ⑤ 幼木や若木の主枝先端が折れないように、支柱を添えて固定する。
- ⑥ 強風により落果が予想される場合は、収穫できる樹種（ブドウ等）では、できるだけ収穫する。
- ⑦ 排水対策（明きよ等）をしっかりと行っておく。
- ⑧ 収穫の終了したハウスやトンネルでは、強風に煽られないようビニールを外しておく。
- ⑨ ブドウではべと病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるため、殺菌剤を散布する。
なお、ブドウは収穫時期にあたるため、登録内容の収穫前日数に注意する。

(2) 通過後

- ① 落下した果実は、園外に持ち出して処理する。
- ② 骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を

- 塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
- ③ 落葉や枝折れが多い場合、被害程度に応じ着果数を制限して樹勢回復させる。また、枝折れの部分は切り直し、病原菌の侵入を防ぐための防除措置を行い、除去した枝は園外に持ち出す。
 - ④ 冠水した場合は、速やかな排水に努める。